



三原市長  
五藤 康之

新年明けましておめでとうございます。市民の皆様には、清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素より市政にお寄せいただいておりますお力添えに対し、心からお礼申し上げます。

新生三原市も合併4年目を迎えます。昨年度は、三原市長期総合計画を基に、「住みたい、住み続けたいまち三原」となるようさまざまな施策に取り組んでまいりました。

本年も引き続き、健全な行財政運営を念頭に置き、少子高齢化社会への対応、産業活性化の推進、生活・都市基盤の整備、学校教育の充実、文化の向上などにバランスよく事業を進め、地域の特性を生かしたまちづくりを行なってまいります。

主な施策といたしましては、市民と行政が相互に理解しあいながら行う協働のまちづくりの推進をはじめ、交通基盤の整備として広島中央フライトロード、三原東城線・恵下谷バイパス、三原バイパスおよび木原道路などの促進、生活基盤の整備として、農業生産基盤の整備や本郷駅前整備事業・東本通土地地区画整理事業、下水道敷設事業の推進などを継続してまいります。

また、まちづくりの視点に立った、市民に親しまれる新庁舎のあり方について、市議会との連携のもと、広く皆様のご意見を伺いながら取り組んでまいります。

昨年10月には、待望の三原市芸術文化センター「ポポロ」が開館いたしました。このポポロが三原市の芸術や文化の発信拠点となり、地域の文化がより一層充実、発展することを期待しております。

今後も、知恵と工夫と市民参加を合言葉に、魅力・活力にあふれるまちづくりに向け、まい進してまいりますので、皆様方の一層のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。年頭にあたり、市民の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のごあいさついたします。

新年のごあいさつ





三原市議会議長  
真嶋 智

新年明けましておめでとうございます。市民の皆様には希望に満ちた輝かしい新春をお迎えることと、心からお慶び申し上げます。

現在、国内の景気は、原油高など資源価格の高騰や円高の進行などの問題から先行きに懸念がありますが、着実に回復が拡大していることは大変喜ばしいことと受け止めております。

一方、三原市を取り巻く環境は、本格的な少子・高齢化の到来、そして国が進める「三位一体改革」や「地方分権」に伴う財源確保など依然として厳しい状況下にあります。しかし、福祉の充実、市民の安全を第一に考えた生活環境の整備と道路や公共下水道などの都市基盤の整備は、速やかに推進しなければなりません。また、本市が持つ自然・歴史・文化など優れた特性を生かし、新たな時代にふさわしい魅力あふれるまちづくりを進める必要があります。

そのためには、市政に携わる者が一丸となり英知を結集し、効率的な行政運営により、さまざまな施策を推進することが大切であります。

市議会としても、市民ニーズを的確に把握し、市政に反映させていかなければならないと考えております。また、地方分権によって、市の権限は増大することになり、行政に対するチェック機能や政策形成能力など市議会が果たす役割がますます重要になってまいります。私どもは開かれた市議会を目指して研さんを積み、市民の負託にこたえるべく決意を新たにいたしております。

年頭にあたり、三原市のさらなる発展と市民の皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のごあいさついたします。

